

WHAT'S FEAST?

大量生産・大量消費に後押しされ、私たちの食を支えるフードスケープは、環境破壊、公衆衛生上の問題、生物文化多様性の喪失、食の安全や主権の衰退を引き起こしています。今まさに求められているのは、食料を生産、分配し、管理する仕組みを変化させることです。しかし、私たちには、持続可能な食農体系への転換を導くための知識が欠けています。食農体系の転換はどのように生じ、根付くのか。そのとき制度や政策はどうあるべきなのか。社会的な実践とは何か。そして将来の経済的な仕組みとはどうあるべきなのか。このような点について理解を深めることが不可欠です。

FEAST では、超学際的な手法を用いて、日本、タイ、ブータン、中国といった研究拠点を中心に、アジアにおける持続可能な食農体系への転換について、現状と潜在的な可能性を明らかにしていきます。

FEAST では、研究活動を通じて下記の課題に取り組んでいます。

1. 理想の未来に向けて、社会はどのように変換し転換するのか。
2. 持続可能な食農体系の転換（消費、生産、管理）は、どのように生じ、根付き、スケール・アップするのか。
3. 持続可能な食農体系の転換は、人々の日々の生活にとって、また新たなライフワールドを共同で構築するに際し、どのような意味を持つのか。

ライフワールドの視点から、食の消費パターン、食に関係した社会的実践とその社会文化的意義、消費者団体を分析し、その物理的な構造だけでなく、心の奥深くに根差している文化的な概念、更には地域の食システムに変革をもたらすことを目指しています。そして、長期的な食の安全、安心、よいくらしといった概念を再定義するための知識とメカニズムを探究しています。

LiFEworlds of Sustainable Food Consumption and Production: Agrifood Systems in Transition

持続可能な食の消費と生産を実現するライフワールドの構築 - 食農体系の転換にむけて



FEAST

みんなで作る「いただきます」

スティーブン・マックグリービー

FEAST プロジェクト・リーダー。総合地球環境学研究所准教授。京都大学博士（環境社会学）。



Web サイト、Facebook ページ、Twitter アカウントで、最新情報をお知らせしています。ぜひ、のぞいてみてください！

<http://feastproject.org>

[@feastrihn](https://www.facebook.com/feastrihn)

[@feast_project](https://twitter.com/feast_project)



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
総合地球環境学研究所
Research Institute for Humanity and Nature

総合地球環境学研究所（略称「地球研」、英語名“Research Institute for Humanity and Nature”）は京都市北区にある文科省系列の研究所です。地球環境問題について、自然科学・人文科学・社会科学といった分野を超えて総合的な研究を進めています。 <http://www.chikyu.ac.jp/>

〒603-8047 京都市北区上賀茂本山 457 番地 4

Tel. 075-707-2100（代表）、075-707-2378（プロジェクト直通）

Fax. 075-707-2508（プロジェクト直通）



FEAST

みんなで作る「いただきます」





SOCIETAL IMPACT

FEASTは、プロジェクト期間終了後も、持続可能な社会への転換に向かう道のりを照らし続ける「灯台」となりうる仕組みを、市民の方々と共同で創出することを目指しています。

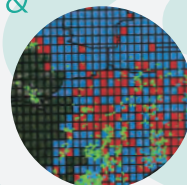


- 🕒 地域の食システムを解き明かす地域社会向けツールキットの作成
- 👥 地域の食のシステムの課題を統合的に扱う体制の確立～市民ネットワーク・食と農未来会議（FPC）
- 👑 持続可能な食の日本版ガイドラインの作成
- 🌿 地域の持続的発展を支える環境影響表示ツールの共同開発
- 📱 食品の生態系、社会、健康への影響に関する情報を提供するスマートフォン・アプリの開発

WORKING GROUPS

1 フードシステムマッピング&モデリング

現在の食のシステムの流れや地域の潜在的な食料供給圏（foodshed）をマッピングし、将来の食生活がどのようなものになるのか考えます。



2 地域社会における食の論理と消費行動への働きかけ

持続可能な食農体系の転換に向けて、参加型アプローチやビジョニングといった様々な手法を用い、新しい地域の食のガバナンス体制（食の市民ネットワーク、日本版フードポリシー・カウンシル「食と農の未来会議」）の確立や、代替手段となる社会的実践の創出を目指します。



3 アグロエコロジカルな農林水産の戦略

生態系の原則を応用した持続可能性の高い、アグロエコロジカルな食の生産を、望ましい生産のあり方とし、国や地方政府の農業政策、生産者の戦略や実践の変遷を通じて考察していきます。



4 地域の持続的発展を支える環境影響表示ツールの開発

エコラベルなどの持続可能な地域に根ざした環境品質手段を模索し、環境に優しい食の生産と、新しいマーケットを支える仕組みを組み合わせ、地域おこしに貢献します。



5 フードチェーンの見える化

食品産業の鍵となるステークホルダーと綿密に連携しながら、生態系、社会、健康への影響という3つの軸に沿って、さまざまな食品分野におけるライフ・サイクル・アセスメント（LCA）データを集約し、消費者が普段見ることのできない環境負荷などのバックストーリーを「見える化」するスマートフォン・アプリを作成しています。

